

[柔道ルネッサンススピーチ原稿]

第 55 回全国高等学校柔道大会

平成 18 年 8 月 10 日(木)

薪 谷 翠



あいさつ

会場の皆さんこんにちは！です。大阪でのインターハイ柔道競技の開催本当におめでとうございます。私も高校時代この大阪で3年間過ごしました。本当に懐かしいです。選手の皆さんの活躍を期待しています。

柔道ルネッサンスの意味

さて、この会場にも横断幕があげられていますが、皆さんは「柔道ルネッサンス」という言葉をご存知でしょうか？色々なスポーツの競技の中で、柔道競技の会場の使用状況が汚い！柔道競技に携わる人達のマナーが悪いなど世間からの声があり、このままではいけないと 2002 年全日本柔道連盟が掲げたメッセージが「柔道ルネッサンス」です。

マナーが悪い理由

皆さんは、なぜ柔道をする人達のマナーが悪くなったりしたんだと思いますか？私は勝つことにだけ執着してしまっただからだと思います。どんなスポーツをするにしても「勝つ」ことは大変大事な事です。でも「勝たなければならない。」とその事ばかり考えてしまうと回りが見えなくなって自分を見失ってしまう事が多いです。私もそうでした。

自分の場合

自分は 2002 年の釜山のアジア大会で膝に大きな怪我をしてしまい、新聞にも再起不能とまで書かれました。そんなへこんでいる時に、「自分だけで戦っているんじゃない。自分の身の回りの人達が支えて、いっしょになって戦ってくれていたんだ。」と気づかせてくれたことがありました。自分の家族や同僚、柔道のライバル達です。全柔連強化でライバルの塚田選手にもずいぶんと励まされました。

感謝

自分が常勝している時には、人の気持ちなどあまり分かりませんでした。しかし自分が挫折感を味わって初めて回りが見れたような気がします。合宿所の掃除をして頂けるおばさんに感謝！ご飯を作ってくれて頂けることに感謝！リハビリトレーニングのコーチに感謝！また練習出来る事に感謝！おのずとトイレの履物も自分で直すようになりました。そして自分を見つめ直すことが出来て一回り大きくなったと思いました。戦いの中でどんなに自分が不利になっても冷静でいられる。それが昨年のカイロでの「金メダル」につながったのだと信じています。決して自分だけの力ではない。みんなの力の結集だと思いました。

育成

本来柔道は嘉納治五郎先生が「精力善用」と歌い、その修行においてすぐれた人格を育成する事を目的とされていました。それがいつしか勝つことだけにとらわれ、世間から批判を受ける競技になってしまった事は残念です。

まとめ

やっぱり柔道をやっていてよかったと言われる様に襟を正して、他の競技のお手本になりたいです。皆さんも御協力お願いします！有り難うございました！